

被災地への思い…絆

被災地対策室長 福士 晃昭

3.11……一生涯、忘れる事がないと思います。

あの悲惨な大震災もあと少しで一年が過ぎようとしています。振り返ってみるといろんなことを思い出します。

平成23年4月16日早朝午前2時。弘前YEG炊き出しチームは眠い目を擦りながらバスに乗り込み出発です。目的地気仙沼までは片道4時間ちょっとのチョイハードな道のりです。目的地に着くまではメンバー全員はやる気満々で張り切っておりました。



気仙沼到着。予定時間まで被災地を視察する事になり…。報道であの悲惨な光景は知ってるつもりだったものの壮絶な津波の爪あとを目の当たりに。

平成15年に開催された東北ブロック大会気仙沼大会では朝方まで皆で飲み歩きました。その繁華街もめちゃくちゃに破壊されておりました。隣町の陸前高田市は津波に飲み込まれ破滅状態。言葉も出ずに、ただただその光景をボーゼンと見つめておりました。

…約束していた予定の時間が近づいてきました。沈んだ気



持ちを何とか奮い立たせ会場となる気仙沼中学校、気仙沼高校それぞれの避難所へ。カレーライスや豚汁は炊き出しの定番メニューなので避難所のみなさんは飽きてしまってるとの情報。弘前YEGの炊き出しメニューは現地では珍しいであろう「津軽そば」と野菜不足を解消する為に「野菜サラダ」それぞれ800食です。今にも雨が降りそうな怪しい空模様の中ドキドキしながら準備開始。お昼近くには長蛇の列が出来ました。結局土砂降りになってしまい800食完売(?)という訳にはいきませんでした。それでも初めて味わう「津軽そば」は皆さんに大受けでした。

実は炊き出しの他にもう一つ目的がありました。気仙沼の皆さんを「弘前さくらまつり」にご招待する為の告知です。笑顔プロジェクトの一環として被災地の皆さんに元気を分けてあげたいという企画でした。小田桐誠さんの作成した弘前にいらした被災者の方々の感想を語ったDVDを拝見して分かるように「本当に良かった」というお言葉をたくさん頂戴

しました。

それをきっかけに弘前ねぶたまつり、THE津軽三味線へのご招待、仮設住宅への支援物資提供など気仙沼のみなさんを対象に支援活動を続けています。最近では、気仙沼YEGの企画するイベントに招待を受け参加しております。

いつの間にか「支援」活動から「交流」になってきているようですね。「絆」は弘前YEGの代名詞であります。心のふれあいが実を結んだ結果を嬉しく思うとともに弘前YEGメンバーの熱いハートに感激しております。弘前YEG…って、やっぱり最高だな。

私は今年度で卒業いたしますが皆さんの活動に期待すると共に心からエールを送ります。

継続支援から継続交流へ

弘前商工会議所青年部会長 清藤 崇

5月1日には笑顔プロジェクト～弘前さくらまつりVer.～に57名の皆さんをご招待。5月6日には被災地支援対策室を設置しました。息の長い支援活動を継続的に且つ迅速に実施するためです。その後、弘前市の笑顔プロジェクトも『ねぶたまつりVer.』、『産業振興Ver.』、『THE津軽三味線Ver.』と合計4回実施できました。少しでも弘前でほっとする時間を過ごして頂けたのではないのでしょうか。

今後は「何かできる事をしてあげよう」という形や考えではなく、被災地の方々と心の交流・絆を深める交流へと形が変化してきております。

互いに自分たちの地域を思う気持ちは一緒ですから弘前・気仙沼、両YEGの事業に其々参画しながら、出来ることを確実にこなし、継続していく交流を目的とした活動をと考えております。

～支援から交流へ～笑顔プロジェクトは弘前YEGメンバーの心意気を表現するものとして、語り継がれていくような気さえ致します。



被災地へ復興の願いを込めて…

YEG親睦大運動会

8月28日(日)、ねぶたもお盆も終わっても暑さが厳しいこの時期。スケジュールが空いているという理由と、雨天時も開催可能という理由だけで、夏なのに克雪トレーニングセンター(雪を克服するという意味の名前なのか?)という屋内での開催となったYEG大運動会。運営側としては当然、熱中症を警戒しての態勢で望んだのでした。31人という少ない人数(暑さを考えれば当然か。)での運動会ではありましたが、思いの他盛り上がり、なぜか何回も綱引きをやってしまい、YEGの闘争本能をまざまざと見せつけられた一日になりました。熱中するあまり、約1名が熱中症に(髪がほんの少しだけでもじゃもじゃの人)。暑いけど、来年も開催するぞ!

(YEG活性化委員会委員長 菊池孝顕)



第3回 高校生ビジネスプランコンテスト

明日の商人創造委員会では、黒石YEGと合同で第3回高校生ビジネスプランコンテスト(高校生BPC)を開催しました。一般的なコンテストは作品を募集して審査すると思われそうですが、我々の高校生BPCは西谷講師による「プランの練り方講座」などプランを考える方法を高校生へ指導しながら関わっていき、プレゼンで使用するパワーポイントの起承転結な発表方法等、独自の講習会スケジュールが好評でありました。次回開催時には更なる発展を目指していきたくております。

(明日の商人創造委員会委員長 島川聖栄)



ひろさき FESTIVAL

平成23年9月23、24日にひろさきFESTIVALが開催されました。各イベント会場の中で、弘前YEGは追手門広場で行われた「築城400年感謝祭」でエコリサイクルステーションを設置・活動を両日行いました。

両日も沢山の来場者で会場は賑わい、会場内の出店で販売されていた飲食物の容器・残飯を、来場者自身にエコステーションに持ち込み・分別作業をして頂くこの活動で、来場者に少しでもゴミ分別の意識を促せたのかと思います。他にも、出展していた気仙沼YEGの方々とその後の交流の足掛かりとなったイベントでもありました。沢山の来場者・YEGスタッフの皆さん、当日はご協力ありがとうございました。(地域振興委員会委員長 中林将浩)



2011 津軽の食と産業まつり

弘前YEG全体事業であります「2011津軽の食と産業まつり」が10月14日から16日までの3日間、弘前運動公園内の克雪トレーニングセンターと屋外のエントランス広場において開催されました。

私が雨男だとの前評判どおり天気予報では3日間共雨マーク。責任を取り丸坊主を覚悟しておりましたが、会期中はほとんど雨に見舞われることなく来場者数も73,100人と過去最高を記録することが出来ました。

今年は150の事業所・団体の出展があり、文字通り津軽の食と産業が一同に会すまつりとなりました。去年も大好評だったアップルパイ食べくらべカフェや巨大アップルパイ実演販売、JAPANブランドコーナー、ファッション甲子園PRコーナー、友好都市の斜里町・太田市の物産販売コーナー、函館との交流を目的としたブースもあり、多くの人で賑わいました。また小田桐委員長率いるビジネス推進委員会も「弘前もつけ汁」「津軽ちぢれ焼きそば」の2品で出展し、見事完売いたしました。

今年は、3月に東日本大震災が発生し、実行委員会でも何か出来る出来ないかと模索しておりました。そこで弘前YEG被災地支援対策室と連携し、被災地支援コーナーを設置しました。また被災地の気仙沼YEG・野田村の皆様にも出展していただきました。

イベントは、保育園児の演奏・演技、小学生・高校生のブラスバンド演奏、そば打ち体験等、恒例のイベントに加え、たか丸くんとのじゃんけん・クイズ大会や登別伊達時代村による忍者ショーを実施しました。また今回初めて食と産業まつりを組み込んだバスツアーを企画していただき、他地域の皆様にも楽しんでいただきました。



今年初めて実行委員長となり、至らぬところばかりでしたが、太田・福土顧問をはじめ歴代実行委員長皆様、被災地に出迎えにいただいた清藤会長、一週間以上会社の仕事を放り投げて会場の設営・撤去にご協力いただいた委員会メンバー、家庭を顧みず会期中お手伝いいただいたYEGメンバー、市役所・会議所職員の皆様、皆様のご協力によりまつりを大成功で無事に終了することが出来ました。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(2011津軽の食と産業まつり実行委員会委員長 小林裕之)

YEG親睦ゴルフコンペ

10月19日(水) 爽やかな秋晴れのもと、J Cと合同で、しかも対抗戦というかたちで開催したゴルフコンペ。Y E G 19名、J C 21名の参加でした。Y E GとJ Cの平均点で戦った結果、Y E G平均114点、J Cの平均111点で、平均3点差での敗北を喫してしまいました。無念…。しかも、負けた方が、来年も開催する場合の幹事に…。

ということで来年も開催します。がんばろうY E G！がんばろう東北！

(Y E G活性化委員会委員長 菊池孝顕)



第4回 県連大会

平成23年10月22日(土)、「青森県商工会議所青年部連合会第4回県連大会」が五所川原市で開催され、16名にて参加してまいりました。日本銀行青森支店支店長木下智博氏の講演に続いて行われたパネルディスカッションでは、「未来へ繋げ青森魂～心じゃわめく伝統・文化・祭」をテーマに、我々が花火マン佐藤浩之相談役の一手一投足が観客の心をじゃわめかせました。大懇親会での「単会対抗余興大会」では、渾身の寸劇を披露しましたが惜しくも最下位となり、次回での飛躍を心に誓いました。(専務理事 西谷雷佐)



キッズ★カンパニー3

小学生たちに「商売の楽しさ、難しさ」を経験してもらう「キッズ☆カンパニー」。今年は「地域の産業」を知ってもらうという観点から、「県産木材を使った木のおもちゃ」の商品開発に挑戦しました。森林資源の現状や、職人さんの心がまえなどを学びながら、試行錯誤した半年間。ようやくおもちゃが完成した時は、感無量…。販売当日も子どもたちは大きな声でお客様に商品の売り込みをし、ほぼ完売。「キッズ」のみんな、本当にがんばりました(涙)！

(未来の商人創造委員会委員長 高橋哲史)



12月・クリスマス例会

12月8日(木)(コンセプトを造ろうということで、スタッフ一同が、なぜか、バブルをイメージ(ギラギラした感じ)した服装でのぞんだクリスマス例会。

司会者がギラギラし過ぎ、バブルではない、何かに、日本人ではない何かになってしまいましたが、新キャラクターとして定着しそうなので、一件落着。

皆様からの温かい協賛もあり、参加者70名という人数で無事終えることができました。例会に十数年ぶりに参加したという当委員会のメンバー(某宝石関係者)が盛り上がりすぎ、3次会で足を骨折するという惨事が。来年は更にコスプレ度を高めて盛り上げていきたいと固く心に誓いました。(Y E G活性化委員会委員長 菊池孝顕)



THE津軽三味線2011

T H E津軽三味線が2011年12月10日(土)に弘前市民会館で盛大に行われました。津軽三味線奏者300人の大合奏という全国でも弘前でなければ見る事ができないイベントであり、J R東日本の協力により県内外からたくさんの来場者にお越し頂いております。帰り際に県外の来場者から「宝塚より感動しました。また、来年も弘前に必ず来るから。」と言われ握手をしました。実行委員として関わって本当に良かったと思い、改めて弘前Y E G活動へのモチベーションが上がりました。(T H E津軽三味線実行委員 島川聖栄)



弘前城築城400年祭 エンディングセレモニー

平成23年12月23日に弘前公園二の丸で行われた「弘前城築城400年祭エンディングセレモニー」にエコリサイクルステーションを設置・活動をしました。

当日は生憎の吹雪・寒さの中、15000人もの来場者で会場は賑わいました。

平成23年度はエコリサイクルステーション活動を活発に行ってきた成果なのか出店関係者の助けもあり、大きな混乱もなく来場者もスムーズに分別作業を行っていました。平成24年度も「継続は力なり」を目標に活動していきたいです。沢山の来場者・Y E Gスタッフの皆さん、当日は寒い吹雪の中、ご協力ありがとうございました。

(地域振興委員会委員長 中林将浩)

6月例会

6月例会は初めての担当例会にしては、B級グルメアンケート、気仙沼炊出し報告、ご縁満開サイト、西谷さんのBPCのお披露目といった盛り沢山の例会でした。B級グルメアンケートや会長講師のご縁満開サイトは会員の絆を深めるものでした。最後5、6分のところで雷による停電のハプニングで中断してしまいましたが、西谷さんのプレゼン力や忘れてはならない東日本大震災を皆さんにお伝えできたと思います。



(ビジネス推進委員会委員長 小田桐誠)

8月例会

8月例会は見積り交換会の説明とYEG革新サロンと題して、一戸副会長の司会で安達様、村谷様、木下様の講師の方3名による公的助成制度のフリートーク。とてもレベルが高く補助金、助成金の再認識とネットサイトによる新たな発見方法などで自分も含め会員の方の事業に少しはお役に立てたのではないかと思います。

(ビジネス推進委員会委員長 小田桐誠)

9月例会

9月例会は、9月15日(木)弘前パークホテルにて、元ソフトボール日本代表監督の齋藤春香様を迎え「絆と挑戦」というテーマで、ご講演頂きました。今回は他団体との連携を深める例会ということで、五所川原・黒石商工会議所青年部、岩木商工会青年部の皆様にもご参加いただきました。齋藤様の選手・監督時代の体験談等、大変貴重なお話を聴くことが出来ました。例会後の懇親会にも参加して頂き、名刺交換や質疑応答で聞くことが出来なかった事などお話しする事が出来ました。また五所川原・黒石YEG、岩木商工会青年部の皆様とも、名刺交換を行い、酒を酌み交わしました。各団体とは花火の集い等協力して事業を実施しておりますし、来年度はYEG全国サッカー大会もあります。今回の例会でさらに絆が深めることが出来たのではないのでしょうか。

(ゆたかな郷土作り担当副会長 小林裕之)

10月例会

10月例会は、10月6日(木)弘前商工会議所大ホールにて、弘前商工会議所の新戸部名誉会頭を招き「青年部の皆さんへ」をテーマに講演会を開催しました。名誉会頭となつての初の講演会でもあり、名誉会頭自ら資料を持参するなど熱の入れようが講演開始前から伝わってくるようでした。講話内容も非常に面白く、名誉会頭も時間を忘れる程の熱弁で、青年部に対する想いがより伝わってくる講演会だったと思います。予定の時間では足りず次回での講演を約束し、惜しまれながら例会終了となりました。その後の懇親会でも名誉会頭に参加いただき、話の続きに花が咲いた様です。また機会があれば各会員が勉強できる例会を開催したいと思います。来例いただいた新戸部名誉会頭には改めて御礼申し上げます。有り難うございました。

(総務委員会委員長 山岡正典)

11月例会

11月例会は11月10日(木)弘前商工会議所にて開催されました。メインタイムでは「弘前の未来をしゃべりBAR」と題して、みらい創造ビジョンである「地域満足度∞(無限大)のまちひろさき」を具現化するために、弘前の未来について熱く語り合いました。出された意見は、弘前商工会議所が行う弘前市への建議活動に役立てられました。

(ビジョン推進委員会委員長 中村好孝)

1月例会

1月例会は7月例会に引き続き、株式会社近田会計事務所 近田雄一様を講師でお招きして講話をしていただきました。日本経済の現状から始まり、長寿企業、老舗企業に学ぶ起業家精神と理念経営、近田会計事務所様の経営計画をご講話していただきました。理念が重要であると改めて感じました。懇親会では今年1年のYEG活動の発展、マスマスの商売繁盛を祈念し鏡開きをしました。オリジナルの杯で乾杯し近田先生、会員の皆様と交流を深めることができました。例会に参加、ご協力いただきました皆様には感謝致します。ありがとうございました。

(会員研修委員会委員長 漆澤知昭)



この轍を

お預かりして早一年が過ぎます。一年の間にお伝えできなかった「被災地炊き出し」へ行った皆様の事を、どうしても今回は掲載しなければいけない、と考えておりました。

思い起こせば昨年の4月の出来事でした。轍Vol.61ではどうしても弘前YEGメンバーの被災地への思い、絆を掲載し、支援と言うのは「継続」が必要なんだと言う事をお伝えしたかった。実際にお会いした気仙沼YEGメンバーの方のお言葉だと、「支援」と言われるとつらい、自分らで、できる事を始めなければ本当の復興には繋がらない気がする、というお言葉が今でも耳に残っております。

今後は支援の形も変化していかなければいけないという事実を受け止めながら、今何を必要としているのかを考えながら、継続する事を訴えていかなければいけない時期なのだ、と再度この轍で弘前YEGメンバーにもお伝えしたかった。

今回のVol.61は、当時あれだけ世界中で騒がれていた被災地の皆さまへの復興支援を訴えていた報道も少なく、意識が薄れてきているような気さえる昨今、再度思い出していただき、今後は「交流」という形で支援を続けて行くと言う事を弘前YEGメンバーとして認識していただきたいと思います。

(会員OMS情報委員会委員長 小林朋子)

編集後記